

井木のニューヨーク紀行

井木 守

プロローグ

2010年5月3日からニューヨークの国連本部で行われるNPT条約(核拡散防止条約)の再検討会議に向けて取り組まれる国際共同行動に、ひょんなことから参加することになった。生協労連でも募集していたが、アメリカにはそれほどの興味もなく、また日本の平和団体がニューヨークで騒いでくるだけ...という印象もあった。

実際に参加してみると私の先入観は基本的に間

いざニューヨークへ！

今回の行動は、4月30日(金)に日本をたち、5月6日(木)までの7日間だった。実際のニューヨーク滞在は、5月1日から4日までになる。日付変更線を通る関係で5月5日にニューヨークをたち日本につくと6日になってしまう。

さて、4月30日は、成田空港に向けての出発。前日までに娘が食事に困らないように冷凍品やレトルト品を買い込んで準備しておいた。6時5分笠岡駅発の電車で岡山駅に向かい、新幹線で東京駅。さらに成田エクスプレスで成田空港までという長い道中だ。岡山駅についたら、倉敷市職労の星原書記長が見送りに来ていた。2名の参加者の見送りのために専従書記長以下4人も見送りが来るとは...。それに比べてわが労組は、誰一人見送りはない。これもすべて私の不徳の致すところか。

東京駅についてから乗継までに約30分。成田空港に着いたら個人ごとに航空券を受け取りチェックインして...ということで、時間はほとんどなく、全員朝食をとる時間はなかった。事前にわかっていれば少し無理をしても東京駅で弁当を買う時間はあったのに...。各自で搭乗手続きをしてブリーフィングルームに集合したが、通り一遍の説明とお土産屋さんのセールスだった。どうも日本原水協の段取りが悪い。この段取りの悪さはニューヨークでも目だった。

関空や中部国際空港からも出発したということだが、岡山空港から仁川空港に飛び、そこからニューヨークにというほうがもっとゆっくり出発できたのではなかろうか。全員がまとまることでコストメリットがあるのならともかく、そうでないのなら分散させたほうが時

違っていることが分かったし、労働組合運動も平和活動も国際的な視野をどう持つのかということが、とても重要だと考えさせられる。目で見ても、肌で感じて、考える、重要性をあらためて感じた1週間であった。

間の節約になったのではないか。

飛行機の中は異様だ。エコノミークラスはほぼ100%が日本人。しかも各原水協からの参加者のようだ。隣のおじいさんは釧路原水協の方のようで、かなりのご高齢だ。狭い飛行機での長旅はつらいだろう。岡山県代表団は若い人が多い。29名中の12名が20代の若者だ。頼もしい限りでもあり、また不安もいっぱい。でも岡山県代表団でよかった。

デルタ航空は、それぞれが自分の好きな時に映画などのエンターテインメントが楽しめるようになっている。これはすごいが、最新のアバターがあったのに、日本語吹き替え版がない。字幕もない。これでは楽しめない。

外国の航空会社に乗るたびに思うのだが、もう少しキャビンアテンダントの年齢や容姿に気を使っても良いのでは...差別発言だが、逆にいえば日本の航空会社のように、若くて美人のCAばかりというもの、いかがなものかと思うが...。日本人のアテンダントが1人いるが、町に出ればどこから見てもちょっと派手な「おばちゃん」だし、言葉遣いも日本の航空会社に比べると少し雑だ。逆に考えると、日本の航空会社は過剰サービスなのかもしれない。日本人の感覚と欧米人の感覚はかなり違うので仕方がないが...

ところで NPT 再検討会議って何だ？

ところで、NPT 条約が何かを説明しておかないといけない。Nuclear Non-Proliferation Treaty は、日本語では「核拡散防止条約」といわれ、世界中にたくさんの核兵器保有国ができるのを防止しようという条約だ。1963 年に国連で採択され、1968 年に最初の 62 ヶ国による調印が行われ 1970 年に発行した。2008 年 12 月現在で 190 ヶ国がこの条約に加盟している。

それにもかかわらず、未だに核兵器はなくなっていない。なぜか、実はこの条約にちょっとした仕掛けがあるからだ。乱暴な言い方をすると、1968 年の時点で核兵器を持っていたアメリカ・イギリス・フランス・ロシア・中国（実は国連の常任理事国なのだが）は、引き続き核兵器を保有するが、それ以外の国は核兵器を持たないというもの。少し正確に言うと、核兵器保有国による、核兵器や技術の非核保有国への譲渡や移転の禁止、「誠実に核軍縮交渉を行う」

オランダ人が拓いた町ニューヨーク！

ニューヨークは、いうまでもなく全米で最大の都市である。アメリカのみならず世界経済の中心地でもある。町の名前からして、イギリスによってつくられた町かと思いきや、物の本によると、ニューヨークの起源は、17 世紀までさかのぼり、オランダ人がネイティブアメリカンとの毛皮貿易のためにマンハッタンの南端に入植地を作ったことによる。1626 年に時のオランダ人総督が 60 ギルダ（現在の換算で\$1,000 程度）でレナペ族からマンハッタン島を買い取り、ニューアムステルダムと呼ばれるようになった。ただし、ネイティブ・アメリカンに「土地を売買する」という文化

いきなりの国際会議

東部時間の 30 日 14 時ごろに、予定よりも 1 時間早く JFK 空港に着いた。パスポートコントロールはいつものことながら緊張する。今回も目的と滞在日数と一人かどうか聞かれた。送迎バスの到着は 30 分以上遅れた。結局ホテルに着いたのは当初予定時間とあまり変わらなかった。私と共産党の林市議は国際平和会議に参加予定だったので、食事もせずそのまま国際会議に参加した。会場のリバーサイドチャーチは、ハーレムの少し南、ブロードウェイをはさんでコロンビア大学のキャンパスの北側にある。ハドソン川に面したパブテスト派の大きな協会だ。マ

義務が定められ、非核兵器保有国には核兵器の製造や取得が禁止されている。核兵器国による核兵器の配備や開発は条約上禁止されていない。だからアメリカは未だに核兵器に固執している。さらに、このような不平等な条約だから、インドやパキスタンは条約に参加しなかった。中東の鬼っ子イスラエルも未加盟だ。

NPT 条約は、こうした問題を持ちながらも、非核兵器国が条約上の義務を遵守することで核兵器の拡散防止に一定の役割を果たしてきた。25 年の条約期間が切れる 1995 年に無条件・無期限延長が決まった。NPT 条約は 5 年ごとに運営状況を検討することが定められている。今回はジョージ・ブッシュが始めたイラク戦争が泥沼化した 2005 年。そしてバラク・オバマがプラハ演説をした 2010 年が再検討会議の年に当たったのだ。

がそもそもなかったことから、レナペ族やその他の部族との両道をめぐっての武力衝突が続いたようだ。侵入者に備えて作られた防壁がウォール街の由来だそう。その後、1652 年からの英蘭戦争の結果、イギリス領となりニューヨークと改名された。アメリカの独立までイギリスの統治下にあった。

独立戦争後、1788 年には合衆国憲法制定会議がニューヨークで行われ、1790 年までは首都だったようだ。1789 年にはウォール街のフェデラルホールでワシントンが初代大統領に就任した。

ーチン＝ルーサー＝キング牧師がベトナム戦争反対の演説をした教会らしく、ロビーにも大きな写真が掲げてあった。話の内容は、時差ぼけと同時通訳がうまく聞き取れなくて



まったく覚えていない。ただただ眠たい。

今回のホテルは、マディソンスクエア=ガーデンの隣でエンパイアステートビルやタイムズ=スクエアにも近い。ロケーションとしては悪くない。ただ、古いホテルのようで苦にはならないが、設備はボロイ私たちの部屋にはベッドとバス・トイレ・テレビ以外、書き物をするデスクもない。ところが、ほかのメンバーの部屋は広いし、デスクはあるし...これで同じ値段は不公平だ。面白いのは、長期滞在が多いのか、アメリカ人の特性なのかは分からないが、大きなアイロン

アメリカの警察事情

ここで少しアメリカの警察事情について。ニューヨークで警察といえばニューヨーク市警(NYPD)だが、アメリカの警察組織は複雑だ。自治体の権限が強いアメリカでは、自治体警察が主流で、州警察、郡警察、市警察がそれぞれ管轄を分け合って活動している。さらに行政機関が独自に警察組織を持っている場合もある。32St.に数台のパトカーが止まっているのを見かけたが、マークには「Metropolitan Transportation Authority」と書いてあった。ニューヨーク州交通局警察で、ニューヨーク州とコネチカット州にまたがって管理する交通機関の施設内を管轄している。日本でいえば、かつての鉄道公安官のようなものか。

法の執行という点ではさらに複雑だ。映画「逃亡者」のサミュエル・ジェラードは連邦保安官補。連邦保安官は1789年に設置されたアメリカで最も古い法執行機関で司法省に所属する。主な任務は司



MTA のパトカー

望まれてない軍事基地

まだ時差ぼけで、3時に目が覚めてしまった。相部屋の松村さんは、6時頃からタイムズスクエアに行くと言って出かけた。7時ごろからホテルの周りを

台が備え付けてある。

私と林市議が国際会議に参加している間に、他のメンバーはエンパイアステートビルに上がったようだ。残念。私たちは21時に会議が終わり、116丁目から34丁目まで帰って、中華料理のデリで軽い夕食をとった。1ポンド\$1.99、\$6もしたのに決しておいしいとはいえない代物だった。チャーハンも焼きそばもすごくまずい。油が良くないのか...犬か猫の油かと思うほどひどかった。



NYPD のパトカーと警察官

法制度の保護で、裁判所や裁判官の警護や、礼状の執行、逃亡した被告人・連邦囚人の逮捕なども行う。ハリウッド映画によく出てくる。

他にはFBI(Federal Bureau of Investigation)がある。こちら司法省に属する。複数の州にまたがる犯罪やテロ・スパイ活動などの国家に対する犯罪の捜査を行う。こちら映画によく出てくるが、なぜか警察とは仲が悪く描かれていることが多い。

NYPD(ニューヨーク市警)は、ネットの百科事典では、最近では Glock や SIG を装備しているとのことだったが、116丁目の地下鉄駅に立っていた3人の警察官は、グリップの形を見る限りベレッタ92Fだった。税関の職員もベレッタだったが、2日のタイムズスクエアの警官は、Glock や SIG が多かった。WWでこれといって目立つ兵器のないイタリアだったが、9mmベレッタは世界を席卷した感がある。

ぶらりと一周した。マディソンスクエア=ガーデンの入り口付近には怪しげな黒人がたむろしていた。向かいには中央郵便局(UNUTED POST OFFEES)

の大きな威厳のある建物があった。ペンシルベニア駅の出口辺りにもホームレスを見かけた。スーパーが早朝から営業していたので、水とジュースとサンドイッチを買ったら\$10,15 もした。サンドイッチが\$5.99 もした。ガーリックが少しいたクリームチーズのソースで、それなりに食べ応えはあったが、パンがバサバサしていて美味しくはない。水は 1 ガロン(3.79ℓ)で\$1.99、最も安いのを買ったのだが...

昨日と同じメンバーでリバーサイドチャーチへ。それぞれの分科会に参加。「アジア・太平洋の軍事優先主義と軍拡競争への対抗」という分科会に参加した。メインスピーカーは 2 名、ガーソン氏と日本原水協の土田さん、報告として、普天間・ハワイ・グアム・韓国・中国から報告があった。隣の分科会には秋葉広島市長が参加していた。それぞれのスピーカーが自分の主張や原稿をしゃべりきるので、時間が大幅に遅れてしまい、分科会といっても議論するような時間も知識もない。

昼食休憩、昼食は近くのデリで、レタス&トマト&チーズサンドとコーヒーで\$6。食事は早々に切り上げ、Grant 将軍記念館を見学。中には少しの資料と棺が 2 つある以外には何も無いといってよい。前庭には平和行進を歩いてきたであろう集団が休憩していた。

午後からは、先に第 2 総会だったが、時間になってもなかなか始まらない。黒人二人のパフォーマンス



Grant 将軍記念館

スで始まり、日本山妙法寺などの宗教者の取り組みと、思うが平和行進が入場、それぞれのスピーカーがスピーチ...というすすめ方だった。今回も同時

通訳の調子が悪くほとんど聞き取れない。結局居眠り三昧だった。

ガーソン氏と思うが、彼のスピーチの要旨は、アメリカは、米西戦争(アメリカとスペイン)によって、フィリピンやグアムを手に入れ世界支配の基盤をつくった。日露戦争の処理をしたポーツマス会議で、日本の朝鮮半島や中国への進出を一定認めながら、自らも太平洋地域の植民地化に取り組んだ。それが 1939 年までの状況だった。核攻撃は、日本というよりもソ連を意識した攻撃だった。戦後の世界支配の確立を狙った。日米安保条約でアメリカは日本に基地をおくことができるようになり、今日まで日米の同盟関係が維持されてきた。少なくともアジア支配のためにアメリカは 9 回核攻撃を行おうとした。冷戦が終わって、世界は変わりつつある。今のアメリカの核政策立案者の関心は、いかにして中国を世界的なシステムの中に組み込むかにある。そのほか、オバマ政権についても触れたようだったが、聞き取れたのはこれくらいまでだった。後の人の話はほとんど聞き取れなかった。

15 時からの分科会は、「外国基地を撤去させよう」という分科会に参加したが、コロンビアやエルサルバドルからの参加者もあったが、半分はスピーカーが午前の分科会とダブっていたので選択を誤った。会場とのやりとりが一定あったが...。どうも同時通訳がよくない。私の隣でやっていたのに聞き取れない。

基地撤去の運動は当然のことながら軍事同盟解消の運動でなければならない。それは、一方でそれぞれの政府に向けられた政策変更を迫る運動となる。どこかの女性が意見として、どこに対する意見ということではなかったが、なぜアメリカ政府に要請しないかといっていたが、アメリカの議会や政府に対する要請活動も必要なのかもしれない。普天間問題の報告者の英語があまりにブロークンなので、日本人の通訳が正直に「あとは良く分かりませんでした」と通訳したのはちょっとお笑いだった。参加者が立ち上がって移動しようとする中で、「政府にだまされてはいけない」と女性が叫んでいたが、アメリカ人は世界を、あるいは自らの政府の軍事政策をどう考えているのか、あるいは考えていないのか？

国連事務総長の発言は歓迎された！

会場の準備が遅れたということで、教会の外で待たされた。私は前回の行動を知らないが、日本からも世界からも若い人の参加がめだつ。もちろん高齢

者も多かったが。待っている人の列を縫って、アメリカのティーンの男の子が、\$1 の冠バッチを売り歩いていた。私の後ろには生協組合員と思しき女性たち

がたむろしていた。結局、1時間くらい遅れて第3総会が始まる。総会には、潘基文国連事務総長が出席した。会場参加者は、大きな拍手と歓声で迎えた。潘基文氏のスピーチは、日本原水協のホームページに乗っていた。核兵器廃絶は自らの最優先課題と表明、NPT条約第6条に基づく義務を核保有国に果たせともめると語った。彼のスピーチにはスタンディングオベーションで参加者からの賛同と連帯が示された。

司会によって、長崎市長は、被爆者の議員 2 名と共に参加していることが報告された。紹介はされなかったが、共産党の志位委員長をみかけた。日本の政治家は彼以外はみかけなかった。秋葉市長が英語でのかかなり長いスピーチを行ったが、通訳が入

思った以上にビールは高い

今日の夕食は、同じような惣菜の量り売りだったが、味は昨日よりはるかにましだった。1ポンド\$1,99、ビール 350ml を足して 9 ドルちょっと。1ポンドは 453.6g、\$1=100 円としてグラムあたり 44 円。まあこんなものかとも思うが、2 kgも食べたわけではないので、\$9 ではめっちゃめっちゃビールが高い。NY に来たという不思議な連帯感で行動を共にしているが、群馬から来たという 70 歳の男性は名前も知らない。この店を紹介してくれたのは、同じ国際会議に出ている女性。通りですれ違い、「何買ったんですか？」

「Singe please」

今日が行動としてのメインイベント。朝から署名行動をし、昼から国連本部までのパレード。昼からの準備を考え、岡山県代表団は、2 班そろってホテルの道向かいあるマディソン=スクエア=ガーデンで署名行動を行った。昼からのパレードに備えて、それぞれの団体がパフォーマンスの準備をしているので、ホテルのロビーは、異様な集団でごった返していた。浴衣姿や和服の女性、獅子舞の格好、南京玉簾…。岡山県はまったく地味だった。私は嫌いだが、弾けるときは弾けるということか。

マディソン=スクエア=ガーデンの地下にはペンシルベニア駅がある。アムトラックの駅で、ここからワシントン DC やフィラデルフィア、ボストンなどにも列車で行くことができる。そのせいか、大きな荷物を持った旅行者が、タクシーで乗り付けては降りてゆく。当初は、他の県の参加者も近くで派手にやっていたが、その内どこかへいなくなった。建物よりで署名を

れ替わりまったく聞き取れなかった。

最後は、きたがわてつ氏が登場。英語と日本語で「原爆許すまじ」を歌い、「We Shall Over Come」全員で歌った。私と林さんもそれぞれお隣のフランス人のおばあさんと手をつなぎ…、私たちの前の席はフランスギャル、後ろの席はアメリカンギャルだというのに！！このフランス人のおばあさんは、教会の前で待機しているときに、林さんが話しかけた人、南フランスから来たといっていたようだが、林さんが「プロバンス地方か」と聞いたら「ノン」といっていた。どこだったのだろうか。お父さんは、1940年にマジノ線でドイツ軍の捕虜になり1945年まで収容所に入れられていたらしい。今回、フランスからはかなりの人数が参加しているようだった。



声をかけたら教えてくれた。林さんは名前くらい覚えているかもしれないが、私は、飛行機で私の前の席に座っていた人で、胸元が

大きく開いた T シャツを着た若いお嬢さんと一緒の人ということしか分からない。このお嬢さんは一人で NY 観光でもしているのだろうか。



していたら警備員がクレームをつけてきた、どうも敷地の中で署名を集めるなということのようなのだがよく分からない。しばらくするとそれもなくなった。

心配性の私はどうなることかと思っただが、「案ずるより生むがやすし」ということか「Singe please.」で結構何とかなる。黄色いジャンパーを着た異様な集団だ。「Let's Make a NUKE Free World」の横断



すべてがキングサイズ

昼は、林さんが見つけたというホテル近くのステーキハウスで林さん念願のステーキを食べた。私は、\$16 くらいの T ボーンステーキを注文した。店の入り口で番号をいって注文するので楽。塩と胡椒で焼いただけの肉に、こぶし大のベイクドポテトとパンにガーリックバターを塗ったもの。デリシャスではないが

タイムズ=スクエアに新兵募集所

ホテルから集合場所のタイムズ=スクエアまでは、歩いて10分くらい。前日に爆弾騒ぎがあり、警察の警戒は厳重だった。交差点に必ず2名ずつ立っていた。この日の警官は、ほとんどグロックもしくはSIGを装備していた。予備弾はマガジン2本、携行弾数は36発というところか。

タイムズ=スクエアは、7番街とブロードウェイが交差するあたり。もともとニューヨークタイムズの本社があったことから、こう呼ばれているらしい。いわゆるニューヨークの目抜き通りで、ミュージカル劇場もこのあたりに集中している。そのど真ん中に「U.S. Armed Forces Recruiting station」があった。新兵募集所だ。ひっそりとはなく堂々と。

アメリカは、アイゼンハワーの時代に徴兵制度を廃止し、現在は徴兵登録が義務づけられているが、徴兵は行われず、志願兵制度になっている。軍に入ると特典があるので、下層階級や移民の子弟が主に入隊するようだ。強制されていないだけで、貧乏人が軍隊に入り血を流すという構造は変わらない。

アメリカ軍は、連邦政府の指揮下にある合衆国軍と平時は州政府の指揮下にあり、戦時に連邦政府の指揮下に組み入れられる州兵とに大きく分けることができる。合衆国軍には、陸軍・海軍・空軍・海兵隊と沿岸警備隊(平時は国土安全保障省の指揮下)があり、州兵は州によって異なるが州兵陸軍

幕をもったかわいい女の子が「Sing please.」と呼びかければいやでも目を引く。足早にゆきすぎるニューヨーカーも足を止めて署名に応じる。岡山から持参したチラシに目をやり、足を止めて署名してくれる人も…。ニューヨーカーには署名のお礼にわたした折りヅルがことのほか受けたようだ。

それなりか。それぞれが注文したものの中で私の肉の量が一番少ないということだったが、それでも1オンスだそう。おなかいっぱいになる。小柄な女の子たちは、2人で半分こしていた。残りのメンバーは、吉野家の牛丼に行ったようだ。



タイムズスクエアの新兵募集所

と州兵空軍がある。州兵の任務は、国内の災害救援や暴動鎮圧などの治安維持のほか、アメリカ軍の予備部隊としての役割も果たす。ハリウッドのパニック映画などで出てくる軍隊は、おおむねこの州兵と思っても良い。州兵の勤務は、かつては「週末1回、年間2週間」といわれ、月額\$200程度の給料が支給されることもあり、貧乏学生や自営業者、農家などが州兵登録していた。ところが、イラク戦争が始まりブッシュ大統領はこの州兵にも動員をかけたため、少なくない州兵がイラク戦争に派遣されている。NHKの報道番組でもとり上げられたし、女性兵の問題が本としても取り上げられている。州兵に登録した女性が兵士としてイラクに送られ戦闘に巻き込まれる、その悲惨な現状がリアルに読み取れる。思

わず映像でみたいと思った。

話が飛んでしまったが、ここで募集されているのは

マンハッタンをデモする！



42St.を行進する岡山県代表団

タイムズ=スクエアに集合ということだったが、行進がどこからどう始まるのか誰もわからない。「船頭多ければ船山に登る」というが、まさにそのとおりの仕儀となった。「ここで待とう」「いや最初の集合場所へ行こう」...、結局は、42丁目から40丁目までぐるりと一回りすることになってしまった。集合は1時半で出発は3時半。事前に確認していない私も悪いが、予想外の25度を超える炎天下で、待っているだけで、疲労困憊してしまった。ここでも秋葉市長がスピーチしていた。それぞれの団体の代表のスピーチが延々と続く。近くにたむろしていたフランス人が顔に反核マークのペイントを始めると、岡山の数人が同じようにペイントしてもらっていた。なぜか、虹の旗にPeaceと書かれていたが、出発時間が近づくと更に人が集まってきた。若者も高齢者も...

2時間近く待たされるのなら、タイムズスクエアの近くにはロックフェラーセンターもあり、もう少し観光もできたのに！他のメンバーは前日に行ったのかもしれないが...。それぞれに意味のあるスピーチかもしれないが、通訳がないのでほとんど分からない。いよいよ行進の始まり...だが、なかなか動かない。主

なぜか三三七拍子

公式晩餐会は、最近ニューヨークへ出店したと言う「田舎家」という炉辺焼き。焼き物が3皿、中身は忘れた2皿目がサトイモとエリンギとしし唐、3皿目がサーモンとタラバガニ、まずいわけではないが30ドルは高い。しかも飲み物は別。意味もなく餅つきが始まったり、チェックが終わって帰る時にはなぜか店員全員が三三七拍子。アメリカ人には何のことが

合衆国軍の兵士で州兵ではない。

催者発表では1万人が集まったらしい。42丁目をまっすぐ東へ進む。しばらくするとビルの合間からクライスラービルが見えてくる。観光客と思しき人たちが私たちにカメラを向ける。前回は42Av.を全面通行止めにしたようだが、今回は2車線のみだった。しばらく歩くとグランドセントラル駅が左手に現れた。堂々たる建物だった。ペン駅と同じでホームは地下にあり、地上には駅舎しかない。約1時間のパレードだった。到着地点には日本から送った署名用紙が積み上げてあった。

パレード終了後は、その場所で解散しホテルに帰り、県代表団の公式晩餐会に。歩いて帰るグループ、タクシー、地下鉄の3つに分かれた。私は林さんと地下鉄でホテルへ向かった。グランドセントラル駅からタイムズスクエアに出て1号線に乗り換え34丁目下車。ハマシールド広場からグランドセントラル駅までは10分くらいかかったので、徒歩で帰るのが大差はなかった。



観光客であふれるタイムズ=スクエア

分からなかったかもしれないが、こちらは日本人なので参加者全員が起立して「お手を拝借、よぉ～」と三三七拍子でしめた。ほかの客はあっけにとられていた。しかし、餅つきも三三七拍子もパフォーマンスが好きなニューヨーカーには喜ばれるかも。

店員はほとんど東洋人。しかもかなりのイケメン。でも日本語は分からない。「お兄ちゃん、すんませ

ん！」と日本語で呼び止めたら通じなかった。女の子も可愛い。塚原さんと二人でワインを飲むつもりで頼んだら、オバサマ 3 人にも飲まれてしまって。1 グラス\$40 はとても高かった。グラス 1 杯でカンパしてくれた林さんには感謝！結局、飲み足らなかった

国連本部でお土産を漁る！

午前中は、NPT 行動に来て、国連本部へも行かなかったというのは寂しいので、岡山県代表団は国連本部行くことになった。といっても、実質はお土産を買いに行っただけだが...



国連本部の「発射不能の銃」の前で

国連本部は、マンハッタンの中央部でイースト川の川沿いにある。当然、敷地内は治外法権になっている。周辺の警備もあまり厳重ではなかった。観光客が出入りするゲートの近くには、NPT 会議の開会とあって、マスコミ各社の中継車が並んでいた。厳重なセキュリティーチェックを受けて、ホールに入る。水溶性の爆発物の持ち込みを危惧して、ペットボトルや水筒の水は投棄させられた。

中に入ると広いホールになっている。欧米系の若者が列を作っていたので何かと思ったが、どうも

グランドセントラル駅

昨日と通った道なので迷うことはなかった。グランドセントラル駅まで来ると、警察が 3 台くらいパトカーをとめ、警察犬まで出動させていた。何があったのかいもわからない。ニュー Yorker たちは、何事もなかったかのように足早に通り過ぎてゆく。写真を撮るのをすっかり忘れたが、彼らはニューヨーク市警の Emergency Service Unit(ESU)だった。彼らは、「一般警察官の手に負えないあらゆる任務を引き受けまたは支援する」らしく、SWAT 機能だけな

ので、途中で見つけたアイリッシュパブに私と林、清須、佐川、坂本さんでなだれ込み、ジントニックとギネス。つい「労働組合とは」とぶってしまった。佐川さんと坂本さんはドン引き...まずいぞ！オッサンの説教は聞きたくないか！

内部を案内するツアーがあるようだ。ホールの奥では、日本被団協が原爆展を行っていた。日本からのマスコミが、インタビューをしていた。私の目的はスーベニアショップなので、原爆展にはほとんど目もくれず、地下に直行した。ごく普通のお土産屋さんのほかにブックストア、ユニセフのお店？ 女性の自立支援か何かで資金集めのお店のようなのがあった。国連マーク入りの鉛筆、ポロシャツ、帽子などを買い込んだ。

各自で移動して、午後からの会場のリバーサイド教会へ向かうことになっていた。森本さんは、ウエストサイドの陶器店に行きたいとかで、何人かとタクシーで出かけた。私は、おじさんやおばさんと行動を共にするよりはと思い一人で外に出たら、これまた林さん率いる若者と一緒になった。若者たちなら一緒のほうが楽しい。歩いてグランドセントラル駅から地下鉄を乗り継いでリバーサイド教会へ行くことになった。途中で昼食を食べるところを物色しながら、地下鉄駅に向かった。坪井さんが焼鳥屋を見つけて、すったもんだの末に昼食は焼き鳥弁当になった。\$7 はちょっと高いが、焼き鳥は 100 点、ご飯も 70 点くらいか。味噌汁は 0 点だった。味噌汁は味噌の味も、だしの味もしない。このファーストフード店は、店員が若い。20 代の可愛子ちゃんだった。東洋系の女子もいたが、英語しかしゃべらなかった。



グランド=セントラル駅の内部(フリー写真より)

く人命救助の機能も併せ持っているらしい。

グランドセントラル駅は、1860年代に完成したマンハッタンに歴史的建造物だそうで、現在の駅舎は1913年に改修と修復を加えたものだそうだ。何のことだか分からないがアメリカン・ボザールの建築物で、床は大理石だそうだ。外から見た駅舎も歴史と風格を感じさせるが、中もすばらしい。私の貧弱なカメラでは雰囲気伝えることができない。中央には、丸天井がありプラネタリウムを思わせる星座が描か

原爆製造に貢献したコロンビア大学

さて、地下鉄で116丁目に到着し地上に出た。毎回違う場所に出る。今回はコロンビア大学の正門に出た。コロンビア大学は、アメリカで5番目に古いアイビー・リーグの1校で、私立の大学で、キャンパス内には、歴史的な建造物が数多くあるそうだ。これまた映画に良く出てくる。「スパイダーマン」の主



コロンビア大学の正門？

やはり眠ってしまった公開シンポジウム

記念撮影でリバーサイド教会へ着くのが少し遅れたが、どこで何をしているのか分からない。予定変更で13時半から平和コンサートで15時半から代表団の公開シンポジウムだった。みんながっかり。どうも連絡の悪さと準備の悪さがめだつ。平和コンサートが「義務」出席ではつらいものがある。最初から15時半と指定しておいてくれればもっと動きようがあった。コンサートをスルーして、セント=ジョン=デバイン大聖堂を見学。1892年に着工されたが未だに建設中とのこと。中に入ると驚くほど天井が高く、仏教徒の私でなんとなく神聖な気持ちになる。ぶらぶらしていると、突然パイオルガンが鳴り響いた。どうも調整をしているらしい。教会に鳴り響くパイオルガンはすばらしい。

116丁目からブロードウェイに沿って北は何もな

れている。ホールは広々としていて、出札所のほかにショップが立ち並んでいる。

この駅は、多くのアメリカ映画で登場する。「恋におちて」ではロバート・デ・ニーロとメリル・ストリープ扮するフランクとモリーが通勤に使う駅として何度も出てくる。「カリートの道」では、主演のアル・パチーノが銃撃戦の末にホームで撃たれるラストシーンで使われた。時間があればホームまで降りてみたかったが...。若者たちはいっせいに写真を撮っていたが...

人公ピーターは、コロンビア大学の研究室で遺伝子操作されたクモに刺されて、スパイダーマンになる。「スパイダーマン」ではピーターはコロンビア大学の物理学専攻の学生ということになっていた。他にもいろいろあるが、私より少し上の年代の人にはやはり「いちご白書」ではなかるうか。以前、NHKの衛星映画劇場でやっていたが、残念ながら私は映画を見たことがない。

後でわかったことだが、コロンビア大学はアメリカの原爆製造と深いかわりがある。1939年にエンリコ・フェルミがウランの核分裂実験に成功し、原爆製造の可能性を開いた。また、レオ・シラードがアインシュタインを説得して、時の大統領ルーズベルトに原爆製造を促す手紙を書かせたことがきっかけとなってマンハッタン計画(原爆製造計画)が始まった。正門の前でにこやかに記念撮影をしている場合ではなかった。

かったが、南へ110丁目あたりまではオープンカフェや本屋など並んでいた。コロンビア大学の学生も多いのだろうが結構住宅もあるようだ、小さな子どもをつれた女性を多く見かけた。ブロードウェイから1本東に入ったアムステルダム Av.に面して教会は立っていた。その隣の公園には奇怪なモニュメントがあったが、何を表しているのだろうか。

公開シンポジウムの内容はほとんど覚えていない。日本原水協としてぜひ内容は取りまとめて発表してほしい。そうすれば記憶も多少はよみがえるだろう。記憶の片隅に残っているのは、最後に質問した高校生がえらく難しいことを言ったことと、被爆二世の人が、自分の平和運動の原点は「被爆の体験」だというような発言をしたことくらいか。

おじさんとして思うこと

ナチスドイツのユダヤ人迫害のように、日本人には「民族的体験」として「被爆体験がある」といってよいかどうか分らないが、日本人にとって「原爆投下とその被害」は大きな事実として学校教育でも取り上げる。しかし、原爆を投下したアメリカでは「原爆投下とその被害」は当然取り上げ方が違う。もっと言えば、フランスでも、ドイツでもロシアでも、日本の侵略の被害にあった中国か韓国ではもっと違っているだろう。「被爆の実相を伝える」とよくいうが、国際会議などに出て感じるはその重要性和困難性だ。われわれが過去の侵略戦争を真摯に反省することなく「原爆の被害」を口にしてもおそらく受け入れられないであろう。われわれが世界の平和運動から共感を得るためには、われわれ自身がそれぞれの国の平和運動に共感を示すことから始まると思う。

50 過ぎのオヤジにも ID を見せる？

総会が終わると、若者はおじさんたちがいやで、数人でどこかへ消えていった。私もうとうといいで、本当はオープンカフェに行きたかったが、一人では自信がないので、110 丁目まで歩いて地下鉄で帰った(レイバンの店を見つけたのでよろうと思ったが閉まっていた)。ホテルに着いたらすぐに動き出すつもりが、眠り込んでしまい、目が覚めたら 20 時ごろだった。ホテルの近くのシューズショップでコンバースのバスケットシューズを買った。もちろん色は赤。\$39 だった。K マートでチョコレートとビールを買った。黒人の大きな女性のレジ係に ID を見せると言われた。旅行者なので ID などない。パスポートを出したら、なにやら打ち込んでいたが…。50 歳すぎのおっ

キングコングも上ったエンパイアステートビル

ホテルに帰ったところで林さんに出会い、エンパイアステートビルに行くということで一緒にさせていただいた。ほとんど待つことなく展望台へ。なんと、坂本さんと谷さんに出会った。昼間の眺めもすばらしいのだろうが、ネオン輝く夜の眺めも格別。展望台は観光客であふれていた。とても映画のような恋人たちの時間が過ごせるような雰囲気ではない。

結局寝たのは 12 時。県代表団は明日また署名

バスでめぐるニューヨーク

今日は午前中、5月1日にいけなかったバス観光に参加した。バスの中から眺めるだけということだっ

今回の国際会議はまさにそのようなものであったのではないかと思う。それぞれの国の平和運動の課題に共感し、交流し、その中で「原爆被害の実態」と「非人道性」を訴える。そして一人でも多くの若者にヒロシマ・ナガサキを見せ体験させること。これらを通じて、核兵器廃絶の世界的な世論と各国政府に向けた運動を作り出すことが戦略課題ということだろう。

ところで、われわれの日本はどうか。被爆体験を持つ人は、年を減るごとに少なくなり、10 年もすれば直接の被爆体験を聞くことはできなくなるだろう。原体験を持たないわれわれの世代が、若い世代に何をどう語り継いでいくのか。自らの体験にもとづく言葉を持たないわれわれは、学習の中で磨き上げた言葉で語るしかない。はたして、それが可能なほど学習を積み重ねてきたであろうか。

さんをつかまえて年齢確認をするとは、失礼にもほどがある。アメリカでも頭が薄くなった未成年は少ないだろう。

K マートには生鮮食品はなかったので、道端でホットドッグとプレッツェルを買った。記憶が定かでないが\$6 位したように思う。屋台のお兄ちゃんのガールフレンドか、頭からイスラム教徒のブブカのようなものをかぶった女性が一緒だった。屋台も、K マートのレジ係も、早朝のスーパーのレジ係もいわゆる黒人やヒスパニック、アラビア(イスラム)系か東洋系がほとんど。WASP ではない。マディソン=スクエア=ガーデンの周りのホームレスもすべて黒人だった。人種間格差というか、アメリカ社会ははっきりしている。

活動をするそうだ。まじめな森脇団長の提案か？松村さんは予定狂ってぶつくさいっていた。もっと自由時間を保障して欲しいものだ。半日に切られたのでは何もできない。メトロポリタンは見学だけでも時間がかかる。ニューヨークに来てメトロポリタンにもミュージカルも自由の女神もいけなかったとなると、それはそれで悲しい…。とにかくメインの 3 日 4 日は振り回されてしまった。

だが、初めてのニューヨークなら概略をつかむということでは良かったかもしれない。ホテルからウエストサ

イドを北上し、ジョン=レノンが住んでいたダコタアパートを眺め、アメリカ自然史博物館を眺め、セントラルパークを抜けてメトロポリタン美術館、プラザホテル、ロックフェラーセンターを眺めて、マンハッタン南部へ向かった。

メトロポリタン美術館はやはり行きたかった。シカゴ美術館にはいったのだから...。とりたてて絵画に興味があるわけではないが、話のネタにはなるだろう。

プラザホテルは写真に取っておくべきだった。1985年9月にこのホテルでG5(先進5カ国蔵相・中央銀行総裁会議)が行われた、まさにその場所だ。プラザ合意は、今日の日本経済にも通じる重要な内容だった。

当時のアメリカは、財政赤字と貿易収支の赤字といういわゆる「双子の赤字」に苦しんでいた。1970年代のようなドル危機の再来を恐れた先進国が、協調的なドル安を図ることで合意した。特にアメリカの対日貿易収支の赤字が大きかったことから、実質的には円高・ドル安を容認したのが「プラザ合意」だった。その結果、当時1ドル240円前後だった為替相場が1年後には120円まで急騰した。日本では急激な円高により「円高不況」に陥ることを懸念して、超低金利政策がとられ、これが株式投資や不動産投資を誘発し、いわゆるバブル景気をもたらした。そして、1989年にバブルが崩壊し、日本経済の「失われた10年」が始まる。...

ミッドタウン、チェルシー、ソーホーを抜けて、グラウンドゼロを横目に、バッテリー公園へ。はるかかなたに後姿の自由の女神が見えた。Battery Park...とは「電池」ではなく「砲兵隊」ということらしい。最初に入植したオランダ人がこのマンハッタン島の最南端にアムステルダム要塞を築いた。その名残かもしれない。ここから自由の女神のある島へのフェリーが出ている。記念撮影タイムのあとは、ブルックリン橋の良く見えるサウス=ストリート=シーポートに...

自由の女神とブルックリン橋は、ニューヨーク...という感じがする。メグ・ライアンとヒュー・ジャックマン主演の「ニューヨークの恋」では、橋げたの下に時空の裂け目があり、レオポルド公爵が現代に現れるという設定だった。映画の中では建設中の橋が出てきたが、ブルックリン橋は1869年に建設が開始されたマンハッタンで最も古い橋で、建設に際しては20名以上が潜水病で亡くなっただろう。橋は二層構造で、上部は今でも歩いてわたれる。ブルックリン側から渡ったほうが圧倒的に眺めが良いとのことだが、

今回はその時間もなかった。

レオナルド・デカプリオ主演の「ギャング・オブ・ニューヨーク」という映画があった。冒頭の乱闘シーンの場所がファイブ・ポイントというところだったが、結局分からなかった。ガイドに尋ねたところ「今はない」といっていたが、現在はコロンバス公園の左手側のあたりらしい。南北戦争当時のニューヨークを舞台にした映画で、話自体はフィクションらしいが、敵役のブッチャー=ビルは実在の人物らしいし、デッド=ラビッツというギャング団も実在したらしい。時代背景もラストの徴兵を嫌っての暴動や軍隊による弾圧は実際の話らしい。

1845年ごろからアイルランドではジャガイモの病気が蔓延し、いわゆるジャガイモ飢饉が発生した。100万人以上が餓死し、200万人以上がアメリカ・カナダ・オーストラリアなどに移民として流出したといわれている。バッテリー公園あたりには当時は港と税関などがあり、多くの移民がここからアメリカの地を踏んだ。アメリカにすでに知人があるものは知人を頼り、お金のあるものは地方に移動していくが、そのどちらもない人はマンハッタンにとどまらざるをえない。アイルランドで食うや食わずの生活から移民としてやってきたのだから、当然のごとく極貧の中で厳しい生活を余儀なくされた。自然とスラム街が形成され、ギャング団生まれた。当然、アイルランド系移民の大量入植が始まる前の入植者たちとの軋轢が発生する。映画はこれが下敷きになっている。いくつかホームページもありのぞくと面白い。

後発のアイルランド系移民は、先発の入植者たちにあまり人気のない職業に付かざるをえなかった。それが、消防士や警察官、軍人だったようだ。映画でも出てきたが、3度の食事と給料・市民権をえさに貧しいアイルランド系移民が軍隊にリクルートされた。1861年に南北戦争が始まり、兵士の調達のために徴兵制が実施されたが、\$300 払うか人を雇って代わりに兵士にすれば徴兵を免れることができた。それができない貧困層に徴兵制に対する不満がたまっていた。さらに、アイルランド系の移民たちや彼らに影響力を持っていた民主党(映画の中でも描かれていたが)は「奴隷解放」に必ずしも賛成ではなかったようで、1863年7月13日にニューヨーク最大の暴動が発生する。徴兵事務所の襲撃から始まり、警察署や武器庫を襲撃、目についた黒人は片端から殺しまくったようだ。

ミッドタウンあたりが、整然と碁盤の目のように町

が設計されているのに対して、南のほうは道も狭いし、路地が入り組んでいる。ワールドトレードセンタービルがあんな狭いとおりに面して立っていたとは驚きだ。今でも多くの観光客が訪れていたが、新たな建設工事が着々とすすめられていた。1933年版「キングコング」はエンパイアステートビルに登った。1976年

イントレピッド航空宇宙博物館

つらつら思ううちにバスは、ポート・オーソリティー・バスターミナルの近くに停車し、午後からの会場のSEIU119支部のあるビルを探した。簡単に見つかったが、なんと水道か何かが壊れてエレベーターが壊れたので会場を変更するとのこと。入り口で待機していた女性の係員は今にも泣き出しそうだった。日本の田舎者が、言葉の通じないニューヨークで地図を頼りに会場まできたら会場は変更になっていた。思わず文句のひとつも言いたくなる。気持ちは分かるが、彼女のせいではない。平和運動を取り組む人がそんな心の狭いことでどうする...。「大変だね」と声をかけたら「変更につく、変更で本当にどうしていいか...」と、今にも泣き出しそうだった。

ここで林さんと分かれて、私は自由時間を楽しむことにした。とりあえず、イントレピッド航空宇宙博物館に行った。SEIUのビルからは15分ほどで歩けた。博物館といっても1943年就役の航空母艦が「博物館」になっている。見学料の22ドルはちょっと高い。イントレピッドはエセックス級航空母艦の3番艦で、太平洋戦線でレイテ沖海戦に参加し特攻機の直撃を受けている。また、沖縄戦に参加し、艦載機は大和攻撃にも参加している。その後は、ジェミニ宇宙計画では宇宙船の回収母艦をつとめ、ベトナム戦争にも参加している。飛行甲板には、アメリカの戦闘機だけでなく、ソ連のミグ17、ミグ21、イギリスのスーパーマリンシミター、フランスのミラージュなど



イントレピッド航空宇宙博物館

版「キングコング」はワールドトレードセンタービルに登った。

9.11は許すことのできないテロであり、アメリカにとって癒しがたいキズとして今後も残るだろう。しかし、9.11がなぜ起きたのか、アメリカは何を学ぶべきなのか...。考える必要がある。



TBF アベンジャー 雷撃機

が展示されていた。アメリカのSR71も必見。これはこれで一見の価値ありで、特にF14トムキャットとは初対面だった。また、格納甲板にはアベンジャー雷撃機が展示してある。マニアにはたまらない。アベンジャー雷撃機は1941年初飛行で第二次世界大戦でのアメリカ海軍機として活躍し、多くの日本艦船を撃沈した。1945年12月5日に訓練中のこのアベンジャー5機が同時に消息を絶ったことから、バムューダー・トライアングルの超常現象の典型のように言われたが、21世紀になって5機の残骸が海底から発見されたい。

荷物を少なくしようと一眼レフを持ってこなかったが、やっぱり必要だった。広角でない役に立たない。戦闘機以外で、興味をそそられたのはブリッジの操舵室と中央戦闘指揮所(CIC)だ。デジタル化が進んだ現在のものとは大きく違うとは思いますが、それでも雰囲気はある。

そのほかにも、グレイバック級潜水艦も艦内が見学できるようになっていた。詳しい資料がないので分からないが、1950年代に作られたようだ。同型艦は3隻らしい。特徴は、艦の前部にこぶのような格納庫があり、レギュラス巡航ミサイルを計4発搭載することができたい。レギュラスミサイルは、核弾頭搭載の巡航ミサイルで、弾頭の威力は40キロトン(広島型原爆の2倍強)のものと2メガトン(広島型原爆

の65倍強)の2種類があったらしい。欠点は射程距離が925 kmと短い上に、潜水艦が浮上しないとレギュラスミサイルを発射できなかったことだ。1960年には水中の潜水艦から発射できるポラリス型 SLBM とポラリス型原子力潜水艦が開発され、現役から引退したようだ。

さて、歩き回ってへとへとに疲れたが、夜は生協労連の交流会まで少し時間を余してしまった。歩いて一旦タイムズスクエアに戻った。1時間くらいぶらぶらと劇場やスーベニアショップを冷やかして回った。生協労連の交流会なのに、なぜか加百さんが佐川さんを連れてきた。料理の品数は少なかったが量は多かった。ワインをずいぶん飲んだような気がする。なべちゃんのスピーチが長い。二次会は林さんたちと入ったアイリッシュパブに...、赤松さんはほとんど

エピソード

朝8時45分に集合しJFK空港から日本へ。13時発なのになんでこんなに早くホテルを出ないといけないのか。約1時間でJFK空港に到着し、各自でチェックイン。森本さんがバスの中でパスポートとグリーンカードをなくしたということで少しばたばたしたが、比較的すんなりとチェックインでき、ずいぶんと時間をもてあました。アメリカは出国の場合にはパスポートコントロールがない。出発の待合所に行くときに厳重なボディチェックがあった。靴を脱がされ、ベルトもはずさせられた。予想はついたが、機内では来たときと一緒に座席は同じ、となりのおじいさんまで一緒だった。日本人のアテンダントのおばさんまで一緒とは...。約14時間狭い機内で過ごさなければならぬ。

予定よりも1時間早く成田空港に着いた。成田



グレイバック級潜水艦とレギュラスミサイル

寝ていた。私も目が覚めたらホテルの部屋だった。どうも飲みすぎたようだ。ホテルにはみんなと帰ってきたようなので事なきをえたが...、一人で帰っていたらどうなっていたことか。

エクスプレスの切符を速い電車に変更した。私は自分のだけ。林さんはみんなの切符を変更...。おかげで私だけ車両が別になった。東京駅についたら、みんなをほっといて一目散に蕎麦屋に駆け込み、かき揚げそばを注文した。どうせ化学調味料たっぷりだろうが、久しぶりのだしの味は格別だ。あとは、家に帰るだけ。

今回のニューヨークは、いろいろと考えるきっかけになった。与えられたチャンスに感謝 感謝！ただ、欲をいえば、せっかくのチャンスなのだから、もっと観光もしたかった。もう一度行くしかなさそうだ。シカゴに続いて二度目のアメリカ。アメリカも案外面白い。ヨーロッパとはまったく違う。特にニューヨークは...。貪欲というか...、様々な人種がうごめき、エネルギーにあふれた...町だった。